

ペランパネル 海外使用経験

国際医療福祉大学医学部神経内科学教授／福岡山王病院脳・神経機能センター神経内科 赤松直樹

キーワード：perampanel, epilepsy, seizure

はじめに

ペランパネルは日本で創薬された興奮性アミノ酸受容体に作用する抗てんかん薬である。選択的非競合的AMPA受容体拮抗薬であり、作用機序からも新しいタイプの薬剤である。本邦では2016年3月に承認、同年5月に発売されている。臨床効果に関する知見は現時点では多くが欧米からの報告である。本稿では海外でのペランパネルに関する最近のデータを紹介する。

ペランパネルは部分発作、強直間代発作の両者に有効性が確認されており、難治てんかんにおいても付加的療法での有効性が認められている。近年では、不随意運動症の皮質ミオクローヌスにも有効性が報告されている。一方、副作用にも注意が必要で、めまい、眠気、易刺激性などに注意する必要がある。

1 実臨床でのペランパネルの有効性の報告¹⁾

VillanuevaらがFYDATA研究と題して実臨床でのペランパネルの有効性を報告している。18施設共同での、後方視的観察研究である。12歳以上の焦点性てんかん患者にペランパネルの付加的投与を行い、効果・副作用を観察した。464人の患者を調査し、1年後の治療継続率は60.6%であった。ペランパネル投与前までに試された抗てんかん薬数は7.8剤であった。ペランパネル併用1年後の平均発作減少率は33.3%で、発作消失は7.2%にみられた。非酵素誘導薬を内服している患者で発作消失が多かった。多変量解析では発作転帰良好の因子は、65歳以上の発症、脳卒中後て

んかん、以前使用した抗てんかん薬数が少ない、であった。62.9%に副作用がみられ、めまい、傾眠、易刺激性の頻度が高かった。精神症状の副作用は、精神症状の既往のある患者に多かった。副作用出現は、緩徐な増量により頻度が減少した。実臨床においてもペランパネルは難治焦点性てんかに有効であることが示され、今後が期待されると著者は述べている。

2 スペインでのペランパネルの経験²⁾

スペインからペランパネルの有効性および副作用についての多施設共同研究の結果が報告されている。スペインでのペランパネルが上市された後の2013年から2014年9月までにペランパネルの投与を受けた256例の調査結果である。11施設での後方視的観察研究を行った。以前に使用した抗てんかん薬数は平均6.83で、調査時の併用薬数の中央値は2であった。治療継続率は6カ月84.0%、12カ月71.1%であった。ペランパネルの平均投与量は、6カ月時7.06mg、12カ月時8.26mgであった。50%レスポンス率は6カ月39.5%、12カ月35.9%であった。副作用は35.5%にみられ、14.6%は副作用のため投与中止された。主な副作用は、傾眠、めまい、易刺激性であった。ペランパネルは付加的治療でてんかん発作治療に有効であった。

3 ペランパネルの脳腫瘍に関連したてんかん発作の抑制³⁾

TARGETING ELEVATED GLUTAMATE IN